

早場地帯の茶の早生適品種「さえみどり」

農業研究センター 茶業研究所

研究のねらい

一番茶が早期に出荷できる早場地帯においては、「やぶきた」より摘採期が早く、良質な早生品種が望まれている。

そのため、生産現場(本渡市杵宇土町、標高50m)において品種比較試験を行い、早場地帯における早生品種を選定した。

研究の成果

- 1 一番茶の摘採期は、3～6年生(平成4～7年)の4カ年の平均でみると、「しゅんめい」、「さえみどり」及び「おおいわせ」がほぼ同時期で、「やぶきた」と比較して4～5日早い(表1)。
- 2 一番茶の生業収量は、5年生までは株張りの早い「おおいわせ」が最も優れるが、成木園になると「おおいわせ」、「さえみどり」及び「めいりよく」がほぼ同等となり、「やぶきた」より多収となる(図1)。
- 3 一番茶の製茶品質(煎茶)は、各年次とも「さえみどり」が極めて良質であり、「やぶきた」より優れる(図2)。
- 4 かまいり製玉緑茶としての製茶品質も、「さえみどり」が「やぶきた」より優れる(図3)。

普及上の留意点

「さえみどり」は早場地帯で晩霜害の少ない地域に普及をすすめる。

表1 一番茶の萌芽期及び摘採期

品種名	萌芽期（月・日）					摘採期（月・日）				
	H 4	H 5	H 6	H 7	平均	H 4	H 5	H 6	H 7	平均
しゅんめい	3.14	3.23	3.24	3.30	3.23	4.17	4.24	4.22	4.28	4.23
おおいわせ	3.16	3.24	3.23	3.31	3.24	4.20	4.25	4.24	5.1	4.25
さえみどり	3.18	3.25	3.34	4.1	3.25	4.19	4.25	4.22	4.30	4.24
めいりよく	3.21	3.26	3.26	4.3	3.27	4.22	4.27	4.25	5.2	4.27
やぶきた	3.21	3.28	3.29	4.5	3.29	4.23	4.28	4.27	5.3	4.28

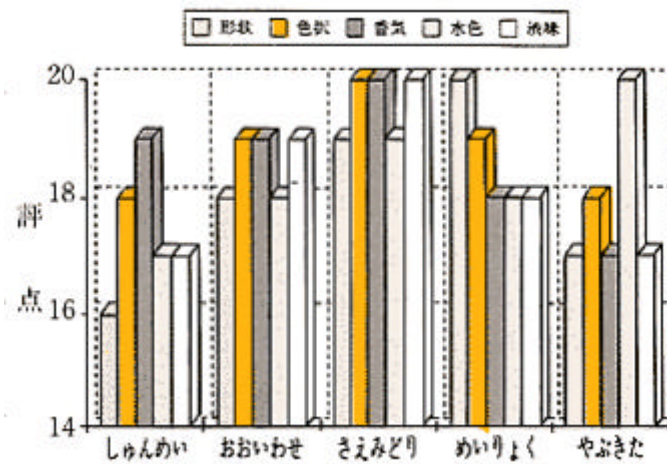


図1 生葉収量 (kg/10a)

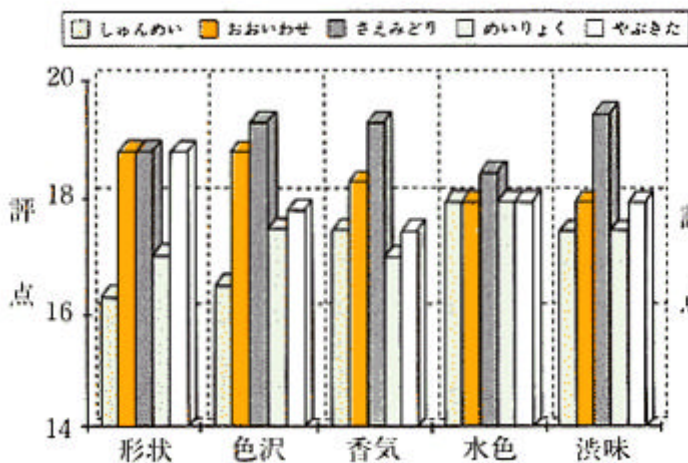


図2 製茶品質（審査項目）

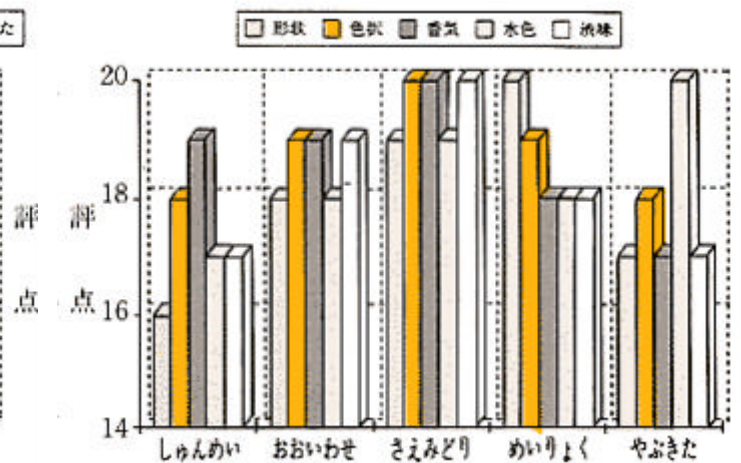


図3 製茶品質（かまいり茶、平成5年）